
短歌ごっこ'10.師走

逸見

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短歌ごっこ・10・師走

【Nコード】

N9770P

【作者名】

逸見

【あらすじ】

日常を詠んでいます

短歌の形式だけど「短歌」と言い切ってしまうのは、なんかおこがましい

そんな訳で短歌ごっこです

おにごっこ
してるように
いつせいに
落ち葉が走る
木枯らしの道

満月に
成れないままに
光りたる
細い細い
三日月な我

くると
舞う赤や黄の
葉の景色
吹く風の中
落ち行くを見る

冬の日の
午後6時の
世界にも
よく似た温度と
風景の中

1、2と
数えながら
折る指も
いつしか片手で
足りなくなつてく

ホントでない
全てのことが
嘘だとは
思いたくない
嘘だとしても

語るほど
何があると
言うのだろう
振つても鳴らぬ
空き缶に似て

写真には
凍結させたい
瞬間を
言葉は思いの
欠片を込めて

ぬくぬくで

うとうとしてる
ゆるゆるの
時間を過ごす
まったりな午後

手のひらを
そつと重ねて
包み込み
温もり分けた
ライムの季節

フィルターを
かけているのか
遠い日は
遠いからこそ
より輝くか

あけまして
なにがそれほど
めでたいか
思いながらも
書く年賀状

さよならは
なんだか少し
違うよで

選ぶ言葉は

「じゃあまたね」

うつすらと

粉砂糖ふった

白い朝

きりりと寒い

空気の中で

もう少し

身軽になりたし

煩惱の

数より多き

物を間引いて

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9770p/>

短歌ごっこ'10.師走

2011年1月8日21時56分発行